

今回からはしばらく接続詞を中心に扱う予定です。文と文とを繋いだいわゆる重文・複文には「等位」(Coordinada)と「従属」(Subordinada)があります。前者の接続詞の代表例としてy, o, peroなどがあり、後者はsi, porque, aunqueなどがあります。今回はもっとも基本的な等位接続詞yの用法から始めます。「連結」の接続詞(copulativa)と呼ばれるものです(他にも「結合」「付加」「つなぎ」「順接」などと呼ばれます)。赤ん坊が言葉を習得する際もyは1番に覚える接続詞で3歳か4歳で使えるようになるそうです。基本的なものだけに、逆に言うとその使用範囲もかなり広いのです。例文から見ていきましょう。

De lunes a viernes yo trabajo en el banco **y** ella estudia en la Universidad.

月曜日から金曜日、私は銀行で働き、彼女は大学で勉強している。

この例文では前半の行為と後半の行為は時間的に並行関係にあります。しかし、yは、2つの文をとにかく繋ぐのが第一の働きなので具体的な意味合いは文脈によって変わってきます。

Entré en casa **y** cerré la puerta con llave desde dentro.

家に入って、中からドアに鍵をした。 時間的連続

この例文では前のと違って前半と後半の行為には時間的前後関係があります。つまり、前後を入れ替えて“Cerré la puerta con llave desde dentro **y** entré en casa”と言うとおかしいですね。更に例文を見ていきましょう。

Anoche llovió mucho **y** las hojas están mojadas.

昨夜雨がたくさん降って、葉っぱは濡れている。 原因

Me llamas “tonto” otra vez **y** nunca jamás hablaré contigo.

もう1度「バカ」と呼んでみろ、2度と口を利かないぞ。 条件

これらの例文ではyは前後の2つの文を繋いでいるのですが、文脈により、より具体的な意味が生じます。「原因」や「条件」です。ただし、y自体にこれらの意味があるのではなく、文脈上これらの意味が生じたと考える方が自然でしょう。

yの特徴は文以外でも2つ以上の要素を繋げることです。名詞、形容詞などいろんな可能性があります。次の例はそれぞれ「名詞+名詞」と「形容詞+形容詞」です。

Ayer compré una botella de champán **y** un pastel.

昨日シャンパン1本とケーキを買った。

Jaime me prestó un libro voluminoso **e** interesante.

ハイメはぶ厚くて興味深い本を貸してくれた。

yが繋ぐものは必ずしも同じ品詞の言葉でなくても同じような働きを持っていればOKです。例えば、次の例では形容詞と前置詞句かyによって結ばれています。

En aquel tiempo ella estaba deprimida **y** sin ganas de salir.

その頃、彼女は落ち込んで外出する意欲がなかった。

さらに「副詞+副詞」と「前置詞+前置詞」の例も見てください。

Últimamente yo duermo bien **y** profundamente.

最近、よくそして深く眠れる。

Vamos a comprar agua mineral **con y sin** gas.

ガスありとガスなしのミネラル・ウォーターを買うおう。

これまで見てきた連結のyの否定形に当たるものがniという接続詞です。「AとB」(A y B)の反対は「AもBも～ない」(ni A ni B)となります。例文を見てみましょう。

Los pobres refugiados no tienen **ni** dinero **ni** trabajo.

かわいそうな難民たちはお金も仕事もなかった。

この文では“no tienen dinero ni trabajo”としてもかまいませんが、niをdineroの前にも置いた方がより強調になります。

ところで、スペイン人はchiste(冗談)好きですが、次のような表現を聞いたことがあるでしょうか(いろんなバージョンがあります)。

¿Cómo se llama el ministro de finanzas japonés?

-Se llama “**Ni** quito **ni** pongo”.

日本の財務大臣は何ていう名前? —「ニキト・ニポンゴ」だ。

日本人には少しわかりにくいchisteです。スペイン人には「ニキト・ニポンゴ」が日本語であるかのように聞こえるそうです。そして、スペイン語で「取りもしない、付加もしない」→「何もしない」という意味になっている一種のかけ言葉なのです。この定型句“ni quito ni pongo”は、実は14世紀のカスティーリヤ王家の王位継承争いの故事に由来するので関心がある方は調べてみてください。

niはnoの代わりに使われて単独で強い否定を表すことができます。

¿Me piden ustedes un aumento del sueldo?

¡De eso **ni** hablar!

給料の増額を要求だと? 言うまでもなくダメだ!

A y Bとよく似た意味になるのがtanto A como Bです。

Esta expresión es correcta **tanto** gramatical **como** políticamente.

この表現は文法的にも政治的にも正しい。

ただし、tanto...como...は、...y...と全く同じというわけではありません。例えば、以下のような再帰文にはtanto...como...は、...y...の代わりに使うことができません。

○El agua **y** el aceite no se mezclan. 水と油は混ざらない。

×**Tanto** el agua **como** el aceite no se mezclan.

より正確に言うと後者の文は文法的に間違いではありませんが、「水と油はお互いに混ざらない」という意味にはなりません。

他に付加を表す表現に...así como...があります。

Todos los alumnos, **así como** los profesores, salieron a la calle por la alarma de incendio.

生徒たち、そして教師もまた、火災警報で表へ飛び出した。

等位の接続詞は最も基本的なものですので確実に覚えていきましょう。¡Hasta la vista!



仲井 邦佳 なかいくによし / Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。専門はスペイン語学。著書に『はじめてのエス/ニューヨーク』(共著、三修社)、『中級スペイン語—文法と演習—』(共著、同学社)などがある。